

とをした人がいたと云うことは大変興味がある（上野益三，博物学者列伝，1991）。

そしてこの頃より外国人の日本訪問が始まると共に Linné の分類による影響も出て次第に動物学より別れて昆虫学として独立した学科としての道を始めることになる。

（追記）最近小西正泰博士著“昆虫採集の歴史”（虫の文化誌，朝日選書，1992）を拝見しているとその中で（p.37）“「石の長者」木内石亭は「雲根志・前編巻3，1773年」のなかで「摂津有馬愛護山で拾ったアリの化石三個を持ってきて見せてくれた人がある。それで翌年そこにいて4，5人で終日さがしたが見つからなかった」とのべている。これは昆虫の化石について日本で最初の記事であらう”と述べられている。甲虫ではないが昆虫化石に関心をもたれ有馬あたりで採集された記録がその頃既にあったことがわかり大変参考になった。

兵庫県のアリモドキ

（ 兵 庫 県 甲 虫 相 資 料 ・ 2 6 6 ）

高 橋 寿 郎

アリモドキ科（Anthicidae）は古くイッカクチュウ科と云われていた。この科に属するあるグループのものにつけられた名を科の呼び名に使用してこれは不適當であると三輪勇四郎博士は名著“日本甲虫分類学”（1938）の中で言及されている。

野村 鎮氏はこの科のものの特徴からアリモドキ科が適當であるとの科名を提唱された（自然の観察 11号，p. 2-4，1960）。その後現在にいたるまでこの呼び方が使用されている。

日本産のこの科のものは1989年の平嶋義宏博士監修の“日本産昆虫総目録・I”によると3亜科12属62種となっている。

日本で始めてこの類の研究発表があったのは1876年の Marseul の論文だろうと思われる（Ann. Soc. Ent. France 6(5)：447-486）。この論文は G. Lewis の採集品に基づいたもので19の新種並びに4種の記録種（No.92-109）が発表されている。

その後 G. Lewis 自身が日本産アリモドキ科の報告をまとめられている（Ann. Mag. Nat. Hist., 10(6)：422-450，1895）。その中では1新属，16新種，11種の記録が記載されているがp.445-446

に当時の日本の Pedilidae として19種 Anthicidae として30種を目録として発表している。したがってこの2人によって日本のアリモドキ科の概要はまとまった状況になっている。

日本人によるこの類の研究は野村 鎮氏によって手がつけられ氏によりいくつかの報文の発表をみた (1960, 1961, 1963, 1964, 1970)。

1983年には中根猛彦博士が日本産クビボトムシ類をまとめられて4新種の記載をされている (北九州の昆虫 Vol. 30, No. 1, p. 1-6, pl. 1)。

1985年酒井雅博氏は日本産47種を原色で図説された (原色日本甲虫図鑑・Ⅲ)。これによって本科の同定もある程度やり易くなった。その後同氏は硫黄島からの1新種の記載をされると共に数種のこの科のものの属名の変更を発表しておられる (Trans. Shikoku Ent. Soc. Vol. 17, No. 4, pp. 247-251, 1986)。さらに多比良嘉晃氏は静岡県の本科のものをまとめられ (静岡の甲虫 Vol. 1, No. 2, p. 13-26, 1982)、今坂正一氏は島原半島のアリモドキ科並びに分布資料を発表しておられる (北九州の昆虫 Vol. 30, No. 3, p. 145-150, 1983)。それぞれの報文ともこの仲間の同定に非常に重要な参考文献である。

兵庫県下のこの科の資料は残念ながら大変少ない。そこである程度同定が出来る種に就いてを中心に分布を記録しておく程度の報告をしておきたいと考える。まだまだわからないものもいるのだからいづれ之等は機会を見て次報以後に発表させて頂き度いと思う。

Family Anthicidae アリモドキ科

Subfamily Anthicinae アリモドキ亜科

Tribe Notoxini

1. *Mecynotarsus minimus* Marseul, 1876 チビイッカク

Marseul により "Nagasaki, Hiogo" 産で記載された。河原とか海岸で採集出来るとのことであるが兵庫県下ではほとんど記録が無い注意が足りないと考える。

トカラ諸島、奄美大島、徳之島には亜種 ssp. *laticornis* Nomura を産する。

産地: Hiogo [Marseul, 1876, Nomura, 1960] *神戸市白川 (lex., 11-X I 1978)

Tribe Anthicini

2. *Formicomus braminus coiffaiti* Bonadonna, 1964 ホソクビアリモドキ

*産地の所で [] のものは記録の引用, () のものは筆者採集, 標本所有のもの。

本種の学名は従来 *Formicomus braminus* Kreikich-Strassold が用いられていたが酒井雅博氏によると (1985) インドに産する *Formicomus braminus* Lafarte が原亜種で日本に産するものは ssp. *coiffariti* Bonadona となり対馬産は ssp. *can dens* Kreich-Strassold となるが再検討が必要とされている。一応ここでは酒井氏の学名を用いておいた。

湯浅啓温・河野広道両博士によると (日本昆虫図鑑, p. 1185, f. 3405, 1950) 春から夏にかけて各地にきわめて普通であると記されている。野村 鎮氏も原色で図説され (1963), 3月下旬~11月上旬河原や砂浜で見られるが花にも来るし, 灯火にも飛来すると記しておられる。また酒井雅博氏も原色で図説, 普通種とされている。更に多比良氏も4~11月に樹葉や bush の beating によって採集出来る, 初冬には落葉下から得られることもあると記しておられる (1982)。

♂では前腿節前縁に歯状突起を有し, 第7腹板後縁が広く三角形に湾入して生殖器が露見している。

多くの書に普通種と説明されているにもかかわらず県下ではそれ程多く見られなかったが城崎郡日高町奈佐路では葉上に多く見られた。

産地: 三原郡福良 [久松, 1973]。飾磨郡家島 (1♀, 26-V-1978)。出石郡出石町荒木 [高橋, 1983]。豊岡市内 [高橋, 1975]。城崎郡日高町奈佐路 (2♂, 5♀, 3-X-1985, 1♀, 25-X-1985, 2♂, 1♀, 22-V-1986)

3. *Anthelephila imperator cribriceps* (Marseul, 1876) ケオビアリモドキ

Marseul により "Nagasaki, Hiogo" を産地に記載された種である。中根博士によると始め独立種として記載されたがその後 *Anthelephilum imperator* La Forté-Sénectere のシノニムとして扱われている。日本産は多少南方産と異なる点も認められるので一応亜種として認めておきたいと (北九州の昆虫 Vol. 23, No. 3, p. 68, 1977)。

兵庫県下では大変少ない。野村氏によると砂丘で採集したと。かつてヤマトイッカクと呼ばれていた。

産地: 三原郡福良 [久松, 1973]。Hiogo [Marseul, 1876. Nomura, 1960]。神戸市烏原 (1♂, 21-III-1974)

4. *Pseudoleptalus trigibber* (Marseul, 1876) ミツヒダアリモドキ

Marseul により "Nagasaki, Hiogo" 産で記載された。前胸背の前方は三葉状, 後方は瘤状である。体長2.3-2.7mm。ミツヒダイッカクと呼ばれていた。

神戸市内で7月4—10日頃葉上に極めて多い。

産地：川西市大和〔仲田, 1970, 1978, 1982〕. Hiogo〔Marseul, 1876. Nomura, 1960〕. 神戸市谷上 (lex., 23-VII-1970), 烏原 (4exs., 4-V-1982, 9exs., 5-VII-1982, 2exs., 9-VII-1982, lex., 13-VII-1982, lex., 19-VI-1983, 2exs., 22-VI-1983, lex., 30-VI-1983, lex., 2-VIII-1983, lex., 13-VII-1983, lex., 11-VII-1984, lex., 22-VI-1990, 3exs., 9-VII-1990), 逢山峽 (lex., 27-VI-1987), 伊川谷 (2exs., 22-V-1988), 多井畑 (lex., 19-VI-1990, lex., 26-VII-1990). 三木市口吉川町 (2exs., 3-VII-1986). 加西市畑 (lex., 29-VI-1974). 小野市山田 (3exs., 18-VI-1987)

5. *Pseudoleptaleus valgipes* (Marseul, 1876) ヨツボシホソアリモドキ

Marseul によって“Japan”を産地に *Anthicus* 属で記載された。

♂後脛節内縁は弓状に湾曲する。♀後脛節内側もかすかに波曲する。♂腹部末節（第7腹板）後縁は中央が軽く湾入しその前方は弱くくぼむ。♀は単純。

本種は酒井雅博氏によって頭部が不完円形であり前胸背長くそして隠れる。上翅基部近くが平圧されている特徴から *Pseudoleptaleus* 属に移さるべきであると処理 (1986) され原色日本甲虫図鑑でもその様に扱っておられる (1985. 命名者 Lewis と間違っている)。

多比良嘉見氏によると日本産アリモドキ中最も普通のもので、畑地や道路脇に積んである刈草やワラ束などから採集され、燈火にも飛来するが個体数の多い割合にはあまり見かけないと記しておられる (1982)。

県下でも広く産するようである。生活史などよくわからない。

産地：川西市大和, 笹部〔仲田, 1978, 1982〕. 伊丹市〔河上, 1984〕. 宝塚市内 (lex., 10-IV-1958). 神戸市山の街 (lex., 1-VI-1958), 藍那 (1♂, 1♀, 27-VI-1978). 明石市林崎 (1♂, 13-IV-1983, 1♂, 30-V-1983). 三木市口吉川笹原 (2♂, 4♀, 3-X-1986). 美嚙郡吉川 (lex., 19-IX-1985), 龍野市神岡町 (1♂, 6♀, 14-IX-1988). 赤穂市天和 (3♀, 6-X-1974). 氷上郡〔山本, 1958〕. 城崎郡円山川堤〔高橋, 1975〕

6. *Anthicus baicalicus* Mulsant, 1866 クロホソアリモドキ

Lewis が “Kobe, Odawara, Yokohama, Kawasaki, Niigata, Hakodate” を産地に *A. baicalicus* Mulsant var. *niponicus* として記載したのが日本からの初めての記録である (1895)。

体黒色で灰白色をやや密生している。砂浜や河原で得られる種である。兵庫県下でも海岸の砂地帯,

河原に割合いるように思われる。

産地：川西市大和〔仲田, 1979, 1982〕。伊丹市〔河上, 1984〕。宝塚市武庫川川原 (4exs., 24-IV-1983)。Kobe〔Lewis, 1895, Nomura, 1961〕。姫路市白浜の宮 (2exs., 20-IX-1979)。豊岡市内〔高橋, 1976〕

7. *Anthicus confucii* Marseul, 1876 ウスモンホソアリモドキ

Marseul によって“Hiogo, Nagasaki”を産地に記載された。分布は広いようで日本以外台湾、満州、スマトラが産地として知られている。トカラ諸島宝島に分布するものは *subsp. tokaransis* Nomura という。

灯火に飛来すると云われるが多比良氏によると畑地の脇に積んであるワラ、刈草、堆肥などを探すとまとまって採れることが多いと記しておられる (1982)。

県下での分布はそれ程知られていない。

産地：三原郡阿万西町〔久松, 1974〕。川西市大和〔仲田, 1978, 1982〕。Hiogo〔Marseul, 1876, Nomura, 1961〕。多可郡白山 (lex., 27-V-1973)

8. *Anthicus floralis* (Linnaeus, 1758) アトグロホソアリモドキ

世界共通種であるとのこと。灯火に飛来すると云われているが兵庫県下での記録は必ずしも多くない。

産地：川西市大和〔仲田, 1970, 1978〕。神戸市烏原 (lex., 1-IX-1967)。出石郡出石町材木〔高橋, 1963〕

9. *Anthicus fugiens* Marseul, 1876 アカホソアリモドキ

Marseul によって“Nagasaki”産で記載された種である。上翅に黄褐色の4紋がある。♂の上翅両側に凹陷があり、その中に褐色毛が生えている。兵庫県下には割合いるようである。

産地：川西市笹部〔仲田, 1979〕。西宮市船坂 (1♀, 5-VI-1987)。相生市三濃山 (4♀, 1-VI-1974)。佐用郡大撫山 (1♀, 25-IV-1976)。宍粟郡音水 (1♂, 11-VI-1972, 1♀, 13-V-1973, 1♀, 3-VI-1973)。養父郡氷の上〔高橋, 1975〕

10. *Anthicus laevipennis* Marseul, 1876 ツヤチビホソアリモドキ

Marseul によって“Nagasaki”産で記載された。河原の石上などにいるとなっている。野村 鎮氏 (1963), 酒井雅博氏 (1985) のそれぞれ原色図説がある。

兵庫県下での記録は次のものを知るのみである。

産地：出石郡出石町荒木 [高橋, 1963]

11. *Anthicus lepidulus* Marseul, 1876 ウスイロホソアリモドキ

Marseul により“Nagasaki, Hiogo”産で記載された。その後の記録が全く無い。

産地：Hiogo [Marseul, 1876]

12. *Anthicus monstrosicornis* Marseul, 1876 ヒゲブトホソアリモドキ

Marseul により“Hiogo, Nagasaki”産で記載された。♂触角第 5, 6 節が三角形に広がる点で他種と容易に区別出来る。

産地：三原郡阿万西町 [久松, 1974]。Hiogo [Marseul, 1876]。明石市大久保 (1♀, 13-IX-1964)

13. *Anthicus perileptoides* Lewis, 1895 ヒラタホソアリモドキ

Lewis により“Kobe”産で記載された種。

海岸や河原の石の下などにいる種とのことであるが原記載以後県下での記録が見られない。

産地：Kobe [Lewis, 1895. Nomura, 1961]

14. *Anthicus pilosus* Marseul, 1876 コクロホソアリモドキ

Marseul によって“Hiogo”産で記載された種である。余り多いように思われぬ。

産地：川西市大和 [仲田, 1970, 1978]。Hiogo [Marseul, 18876]。神戸市藍那 (lex., 3-V-1962)。美方郡浜坂 [高橋, 1975]

15. *Anthicus protenus* Marseul, 1876 クロオビホソアリモドキ

Marseul により "Nagasaki" 産で記載された種 (1876) .

県下での産は余り知られていない.

産地 : 川西市一庫~猪名川町民田 [仲田, 1982] . 宍粟郡音水 (lex., 31-V-1970) .

16. *Anthicus scoticus* Marseul, 1876

Marseul により "Nagasaki, Hiogo" を産地に記載された種である. その後の記録を知らない.

産地 : Hiogo [Marseul, 1876]

17. *Anthicus tobias* Marseul, 1879 タナカホソアリモドキ

野村 鎮氏が東京産で記載された *A. tanakai* Nomura (Entom, Rev. Japan, Vol. 11, No. 2, p. 48, Fig. 2, 1960) , さらに原色で図説された (1963) ものがこの種にあたと (Nakane, T., Anonym. Icon. Ins. Jap. col. nat. ed. II, addenda et corrigenda, 1978) . 酒井雅博氏も原色で図説されている (1985) .

県下での記録はほとんど知られていない.

産地 : 神戸市須磨・白川 (lex., 19-IX-1978)

18. *Anthicomorphus niponicus* Lewis, 1895 クロチビアリモドキ

Lewis によると *Anthicomorphus* 属 3 種のものより広く分布しているとされている. 分布は日本全国であるがどうしたものか県下の記録が従来全くなかった種である.

産地 : 氷上郡山南町 (lex., 6-IX-1990)

19. *Anthicomorphus puberulus* (Marseul, 1876) クロオビチビアリモドキ

Marseul により "Japan" を産地に記載された. 後 Lewis は "Kobe, Maiyasan" を記録した. それ以後の記録が県下で全く無い.

産地 : Kobe, Maiyasan [Lewis, 1895]

20. *Anthicomorphus suturalis* Lewis, 1895 ヘリアアカアリモドキ

Lewis により “Oyayama, Miyanoshita, Tsukubayama, Kashiwagi” を産地に記載された。
県下では氷の山の記録があるだけである。

産地：養父郡氷の山 [2exs., 15-K-1973, K. Tsuji leg.]

21. *Sapintus cohaerus* (Lewis, 1895) ムナグロホソアリモドキ

Lewis により “Yokohama, Kobe on Maiyasan, Usui-toge” を産地に記載された種である。

黒色の上翅に黄赤褐色の4紋を有し、体長3.8-4.3mmでやや大きく、♂は前腿節基部下面には針状の棘突起を有し、後腿節は中央に向かって弱く拡がりその後は平行、多少とも偏平となって明らかに上反する。♀は単純である。

酒井雅博氏は上翅に立った感覚毛以外に後方に向く長毛と後側方に向く微毛をそなえている特徴から *Anthicus* 属の5種(本種もふくむ)を *Sapintus* 属に移された(1986)。既に同氏による原色図説でもそのように変更されている(1985)。

産地：川西市大和、笹部 [仲田, 1970, 1978, 1982]。Kobe on Maiyasan [Lewis, 1895. Nomura, 1961]。神戸市烏原 (1♂, 1-IX-1974), 藍那 (1♂, 9-VII-1979), 押部谷木見 (1♂, 3♀, 23-VI-1980)。三木市細川中 (lex., 30-V-1985)。多可郡三谷 (2♂, 2♀, 2p-IX-1974)。宍粟郡音水 (1♂, 11-VI-1972), 赤西 (1♀, 9-IX-1978, 1♂, 3-VI-1979, 1♂, 23-VI-1979), 坂の谷 (1♀, 22-VII-1979)。美方郡扇の山 [高橋, 1975]

22. *Sapintus litorsus* (Lewis, 1895) クロホシホソアリモドキ

Lewis により “Hakodate” 産で記載された。砂丘や河原で得られるとのこと。日本の北半には多くいる種のようなものである。今の所県下では次の地点での記録があるのみ。

産地：宍粟郡赤西 (lex., 9-IX-1978)。出石郡弘原 [高橋, 1965]

23. *Sapintus marseuli* (Pic, 1893) アカモンホソアリモドキ

Marseul が *A. scoticus* として “Nagasaki, Hiogo” 産で記載された種(1876)をPicが上記の名前に改められた (Ann. Soc. Ent. Fr., LXI, 1892 (1893), P. CCXI)。

♂前腿節基部下面は弱い鈍突起を具え、觸角第8，9節は♀のそれより長いことで♀と区別出来る。
朽木，倒木，薪などに集まる種で県下でも広く産するようである。

酒井雅博氏により *Sapintus* 属の種として扱われている（1985，1986）。

産地：川辺郡猪名川町槻並（1♂，1♀，4-V-1979）。川西市大和〔仲田，1978，1982〕。西宮市船坂（lex.，5-VI-1987，2exs.，11-VI-1987）。Hiogo〔Marseul，1876. Nomura，1961〕。神戸市藍那（3♂，5♀，9-VII-1979），押部谷木見（1♀，24-VIII-1980）；森林植物園（1♀，14-VI-1986）。多可郡三谷（1♀，8-VI-1975，1♂，26-VIII-1975）。小野市山田（lex.，24-IX-1987）。美囊郡吉川町（1♀，11-VII-1985）。加東郡社町三草（lex.，22-V-1989）。宍粟郡赤西（1♂，3-VI-1979，4♂，3♀，23-VI-1979）。水上郡〔山本，1958〕。城崎郡日高町奈佐路（1♂，1♀，25-X-1985，1♂，2♀，22-V-1986）。養父郡氷の山（4exs.，25-VII-1959）。美方郡扇ノ山〔辻，1963.，高橋，1975〕

24. *Derarimus clavipes* (Champion, 1890) セマルツヤアリモドキ

Champion が G. Lewis 採集 “Osaka, 8-VII-1891” 産で記載された種。

1895年には G. Lewis が摩耶山上の寺近くの大変腐った枯葉の下から1881年6月8日5頭得たと囃入りで報告されている。尚この種については宮武陸夫博士が大変詳しく囃入りで解説しておられる（1959）。

本種の分布の太平洋側の東限は小田原附近で日本海側は石川県あたりと平野幸彦氏は報じておられる（1984）。穂積俊文氏も従来の日本での分布をまとめると共に新たに長野県を記録された（1986）。酒井雅博氏は南部インド産で Bonadona が創設した *Derarimus* 属に移すべきである（1986）とされているので此処ではそれに従った学名を用いておいた。

兵庫県下からは上記 Lewis 以後の記録が見当たらない。

産地：Kobe, Maiyasan [Lewis, 1895]

Subfamily Macratriinae クビボソムシ亜科

25. *Macratria cingulifera* Marseul, 1876 オビクビボソムシ

Marseul によって兵庫産で記載された種であるがその後の記録が全くない。

Lewis は1895年に Marseul の記載された標本を返して貰っていない（記載に用いたのは G. Lewis の採集品である）。その後他にこの種の標本を見ていない。それ故タイプはパリ博物館に保管さ

れていると考えられ標本としてはこれしか無いと記している。

産地：Hiogo [Marseul, 1876. Lewis, 1895]

26. *Macratia japonica* Harold, 1876 キアシクビボソムシ

Harold が日本産で記載された (Deutch. Ent. Zeit., p.350, 1877). その後 Lewis は産地を次のごとく記録した "Yamaguchi (Hiller leg.), Yokohama, very common in winter under loosened bark of *Zalkowa Kaaki*, Sieb. Also at Ichiuchi Numata and Niigata".

兵庫県下での記録はそれ程多くないがもっと広く分布しているように思われる。

産地：神戸市逢山峡 (lex., 17-V-1985). 宍粟郡音水 (lex., 11-VI-1972). 氷上郡 [山本, 1958], 山南町 (lex., 6-IX-1990). 養父郡氷の山 (2exs., 27-VII-1956, lex., 21-VII-1958). 美方郡扇ノ山 [辻, 岸田, 1972]

27. *Macratia serialis* Marseul, 1876 アカクビボソムシ

Marseul によって "Hiogo, Mai-ya-san" 産で記載された種である。兵庫県下には割合いるように思うのだが多比良氏は本州からの本種の記録はあまり無いようだと記しておられる (1982)。

産地：川西市大和, 笹部 [仲田, 1978, 1982]. Hiogo, Mai-ya-san [Marseul, 1876]. 神戸市藍那 (lex., 14-VII-1978), 烏原 (lex., 30-VI-1983, lex., 2-VII-1983, lex., 26-VII-1983, lex., 3-VIII-1983). 三木市口吉川町 (lex., 3-VII-1986, lex., 14-VII-1986). 美囊郡吉川町 (lex., 27-VI-1985). 小野市山田 (lex., 8-VII-1987). 宍粟郡水谷 (lex., 17-VII-1981). 養父郡氷の山 (lex., 2-VII-1959)

以上兵庫県産アリモドキ科27種を記録した。調査が充分出来ていないグループだけにより一層の努力をしなければいけないと考えている。まだまだ分布している種もあるだろうし各種に就いての産地も可成り増加することだと思っている。

参考文献

参考文献は多くあるが本報文をまとめるに当って参考にしたもののみにとどめた。県関係の文献は拙編の目録を見て頂きたい。

- 福田 彰, 1958. 日本産甲虫類生態ノート. (II). 新昆虫 11(4) : 43—45.
- 福田 彰, 1959. 日本産甲虫類生態ノート. (III). 新昆虫 12(1) : 5
- 福田 彰, 1959. 日本幼虫図鑑 (北修館)
- 林 長閑, 1980. 枯木に生息するヒラタムシ上科 (鞘翅目) の幼虫の同定手びき. 日本私学教育研究所調査資料(72) : 1—53, 53pls. (ref. p. 51, pl. 50)
- 平野幸彦, 1981. 神奈川県 of 甲虫 アリモドキ科. 神奈川県昆虫調査報告書. p. 338—339.
- 平野幸彦, 1983. セマルツヤモドキの分布. 甲虫ニュース(61) : 5.
- 平嶋義宏監修・九州大学農学部昆虫学教室・日本野生研究センター編集, 1989. アリモドキ科. 日本産昆虫総目録・I : 411—413.
- 穂積俊文, 1986. セマルツヤアリモドキの採集. 昆虫と自然 21(14) : 31.
- 今坂正一, 1984. 鳥原半島の甲虫相(IV)アリモドキ科. 北九州の昆虫 30(3) : 145—149.
- 今坂正一, 1984. 日本産アリモドキ科分布資料(1). 北九州の昆虫 30(3) : 150.
- Lewis, 1895. On the Cistelidae and other Heteromeraus Species of Japan. Ann. Mag. Nat. Hist., xv(6) : 422—450.
- Marseul, M., 1876. Coleopteres du Japan recveillus par M. Georges Lewis. Enumeration des Heteromeres. Ann. Sor. Ent. France 6(5) : 447—486.
- 三輪勇四郎, 1938. 日本甲虫分類学. (西ヶ原刊行会)
- 宮武睦夫, 1959. 興味あるイッカクチュウ科甲虫の1種の記録によせて. あげは(7) : 30—31.
- 中根猛彦, 1983. 本邦産のクビボムシ類について (アリモドキ科). 北九州の昆虫 30(1) : 1—6, pl. 1.
- 中根猛彦, 1988. 日本の雑甲虫覚え書 2. 北九州の昆虫 35(1) : 1—6.
- Nomura, S., 1960. Two new species of the genus Anthicus from Japan (Coleoptera : Anthicidae). Entom. Rev. Japan 11(2) : 47—48.
- 野村 鎮, 1960・1961. アリモドキ科覚え書 (I・II). 自然の観察(11) : 2—4. (15) : 2—4.
- 野村 鎮, 1963. 原色昆虫大図鑑, 第二巻 (甲虫編) (北隆館)
- 野村 鎮, 1970. 日本産異節類甲虫の分布資料. 昆虫学評論 22(2) : 101—107.
- Pic, M., 1911. W. Junk Coleop. Cat. Pars. 36 : Anthicidae.
- 酒井雅博, 1985. 原色日本甲虫図鑑(III). pl. 71—72. p. 415—423 (保育社)
- Sakai, M., 1986. Studies on Anthicidae of Japan (Coleoptera) I. Trans. Shikoku Ent. Soc. 17(4) : 247—251.

多比良嘉晃, 1982. 静岡県に産するアリモドキ科の甲虫. 静岡の甲虫 1(2) : 17—26.

Yawata, H., 1944. Description d'une espece nouvelle Appartenant an Genre Anthicus du Japan
(Col. Anthicidae). Trans. Kansai Ent. Soc. 14(1) : 1—2.

(I · 1992)

尼崎西南部の昆虫(その6)

新 家 勝

Ⅶ Coleoptera 鞘翅目 (続き)

11. Cerambycidae カミキリムシ科

- (1) *Megopis sinica* White ウスバカミキリ
1947, 7, 11.
素盞鳴神社のアキニレにいたもの。
- (2) *Prionus insularis* Motschulsky ノコギリカミキリ
1950, 6, 26.
- (3) *Spondylis buprestoides* Linne クロカミキリ
1947, 6, 1.
- (4) *Macroleptura regalis* Bates オオヨツスジハナカミキリ
1947, 7, 11.
- (5) *Xystrocera globosa* Olivier アオスジカミキリ
1947, 6, 29.
- (6) *Stenygrinum quadrinotatum* Bates ヨツボシカミキリ
1944, 6, 29.
- (7) *Leontium viridae* Thomson ミドリカミキリ
1944, 6, 20, 1946, 5, 21.
庭のセンダンやオオイボクの花によく飛来した。